

大平喜信衆院議員
決算行政監視委で
質問

ステルス機F35Bの岩国配備——重大事故の原因究明ないまま強行!?

許せない! 住民より米軍優先

日本共産党

日本共産党の大平喜信衆院議員（比例・中国）は11月21日の衆院決算行政監視委員会第2分科会で、ステルス戦闘機F35Bの岩国配備問題を取り上げ、米国で重大事故を起こし、その安全性に疑問があることや、配備直前になつての自治体への通知などの問題点を指摘し、「住民より米軍を優先する配備強行は許されない」と迫りました。

安全性への疑問は未解決、環境への影響も調査せず



決算行政監視委で質問する大平議員

明確な答弁さけ配備強行を否定せず

稲
防衛
相田

（現地時間）、米国で飛行中に出火事故を起こしています。大平議員は「少なくとも原因の究明と再発防止策がとられるまで、配備を強行しないか」と迫り、稲田防衛相は「情報の提供と原因究明等を申し入れている。米側から情報が得られれば自治体に知らせ、配備計画に理解を求める」などと答弁し、配備強行を否定しました。

米軍岩国基地には、ステルス戦闘機F35Bが、FA18ホーネット

やAV8Bハリアーに代わって来年1月から合わせて16機配備されることになっています。

大平議員がまず問題にしたのがF35Bの安全性。同機は10月27日

また質問で、米国による岩国基地の環境レビューがこれまで一度も行われていないことが明らかになりましたが、稲田氏は「実施を求める考えはない」と開き直りました。

核兵器搭載が可能
低空飛行訓練の負担増す

米国の「核態勢の見直し（NPR）」

（2010年4月発表）を示し同機の核兵器装備の可能性について質問。稲田防衛相は「将来的には含まれる」と認めました。

さらに、同機が中国山地で低空飛行訓練をおこなう可能性も認め、大平議員は「騒音などによつて訓練直下の住民の負担が増す。配備は認められない」と強調しました。

事故発生から 10日後に自治体へ情報提供

F35Bの出火事故は11月8日になって岩国市などに情報提供されました。大平議員が「いつ米軍から事故の報告を受けたのか」とただしたのに対し、岡防衛政策局次長は「米軍とのやりとりの詳細は答えられない」と住民軽視・米軍優先の姿勢をあらわにしました。



動画を
ご覧ください→

